

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

2025.3.3
堺市立若松台学校
校長 古橋 章秀

中学校区におけるめざす子ども像		
・学んだことを人生や社会に生かそうとする生徒	・実際の社会や生活で生きて働く知識・技能を備えた生徒	・自ら学び続け未知の状況にも対応できる生徒

令和6年度 重点目標 急激に変化する時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育み、子どもたちの可能性を引き出すため、これからの堺の学びとして、「令和の日本型学校教育」である多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。【学校組織としての重点目標】①主体的・協働的な学びを通して「総合的な学力」を育む学校。②多様性を認め、一人ひとりの個性を尊重する学校。③子どもの発達段階に応じて一貫した教育を行う学校。④チーム力を発揮し、家庭・地域・関係機関とともに子どもを育てる学校。⑤いじめの未然防止・早期発見・早期対応に真摯に取り組み、早期解決を図る学校。

「確かな学び」の現状 令和5年度は、生徒が主体的に授業に参加する姿勢が多く見られるようになった。グループ活動を通して仲間と協働的な作業が活発化した。また、職員相互の授業参観及び意見交換により一方向的な授業から対話的な授業展開への変換を見ることができた。また英数共に予定の習熟度別授業実施割合を大きく上回った。きめ細かい授業に対する生徒からの評価も上々である。全ての授業においてパソコンを利用しているが、教科特性によって利用度にばらつきが見られた。校区内の小学校高学年については、令和5年度に中学校英語教員が授業を受け持っており、1年生については実質の中高一貫の英語教育の効果が期待される。	「豊かな心・健やかな体」の現状 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の気持ちがわかる人間になりたい」、「人の役に立つ人間になりたい」、「学校のルールを守って、責任ある行動をとっている」という肯定回答はいずれも全校生徒の大半に達し、本校の様子をそのまま表しているような結果となった。加えて、学年が上がるにつれ、その場の状況を判断できるようになり、上級生としての意識の高まりが見られた。健やかな体の面においては、昨年5月にコロナがの5類移行されたことによりマスクを外す生徒が増加、生徒の行動様式の活発化が顕著であった。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)		達成状況 (年度末)			
									自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	基礎力の定着	基本的な知識・技能の定着 および教科学力の向上	・3年生数学、3年生英語を年間通じて少人数授業。 ・学校群としての活動として小学校教諭が1年生の数学授業に参加し、生徒を側面支援する。	定期テスト等の得点推移	定期テスト等 少人数授業 アンケート	年度末	◎	3年英語の習熟度別は授業全体の7割以上を占め、単純分割1割以上実施。3年数学の習熟度別は授業全体の7割、単純分割1割以上実施。	A	英数共に予定の習熟度別授業実施割合を大きく上回った。テストの度数分布からは一定の成果は見られた。スマホの普及により生徒のタブレットに対する抵抗もなく、ICT利用頻度は無難な水準。教職員は、デジタル採点を開始しており令和7年度から本格実施。	A	ICT機器の使用については、個々の生徒によってスキルが違いう場合が多く、一斉使用させる場合は配慮が必要。生徒が自主的に様々なツールから情報収集できるようスキル向上に向けた指導を行って欲しい。
			●タブレット端末の活用をはじめ、それぞれの授業において、教材や教え方を工夫する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上…A評価(4・5) 80～30%…B評価(3・2) 30%以下…C評価(1)	生徒用学校 アンケート	年度末	○	教員のICT利用頻度がやや増し、教科による工夫が進んでいる。	A		A	
	授業改善	生徒が主体的に取り組む 授業づくり	●少人数授業をはじめ、学びのコンパスに基づき、小中9年間を見通した授業づくりを行う	●主体的、対話的で深い学びにつながる授業として、問題解決的学習やグループ活動に取り組む。	C B T 調査	年度末	○	「学びのコンパス」を意識した授業づくりを目指している。また、学校群により校区内で共通認識のもと授業づくりをしている。	A	講義型の授業から、対話型の授業へ質の転換が図られつつある。適宜、生徒から教員へ質問できる風通しの良い状況であり、今後も継続したい。学校群を通して9年間を見通した教育環境が少しずつ構築されつつある。	A	生徒が主体的に授業参加する態度が多く見られ、この状態を維持して欲しい。また、少人数授業については中学3年時だけでなく、小学校との連続性を考慮して1、2年時でも行う検討を進めても良いかもしれない。今後も、学校群を通して9年間を見通した教育環境を構築して欲しい。
			●主体的、対話的で深い学びにつながる授業として、問題解決的学習やグループ活動に取り組む。			年度末	○	グループ活動を推進し、対話的授業展開を実施している。	A		A	
		・教員の授業力向上を目的として、参観授業や研究授業を計画的に推進する。	研修の進捗状況	職員用学校 アンケート	年度末	○	学期に1度、授業見学週間を設定し意見交換しやすい環境を整えている。	A	A			
豊かな心・健やかな体	秩序と活気ある学びの場づくり	自己肯定感の向上および 将来設計と向上心の育成	●挨拶や返事などの基本的な生活習慣を励行する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上…A評価(4・5) 80～30%…B評価(3・2) 30%以下…C評価(1)	生徒用学校 アンケート	年度末	◎	朝の登校指導を始め、各学年の職員が習慣作りに取り組んでいる。	A	職員による朝の登校指導により、「おはようございます」「さようなら」の挨拶が大きな声で行われるようになった、雰囲気は良い。生徒会が生徒の意見を吸い上げ、校則の変更協議を求めるなど委員会活動は活発である。	A	生徒が元気に登校する姿を目にして安心していている。気持ちの良い挨拶も励行されておりこの雰囲気を維持して欲しい。校則については、今後も生徒の意見を吸い上げ、より良いものにして欲しい。
			・委員会活動等を中心に生徒が活躍できる場を増やす。			年度末	○	毎月、委員会活動を実施している。	A		A	
			・学年ごとに生徒の成長に合わせたキャリア教育推進。			年度末	○	1・3年で進路学活、2年生は、2月の職業体験に向けて現在準備中。	A		A	
		豊かな人権感覚と 道徳性の育成	いじめのない 明るく元気で仲の良い 人間関係の育成	●生徒理解、生徒間交流の見守りとお互いの人間関係育成を目的に、教員と生徒との接点を増やし、いじめのない明るい学校づくりに取り組む。	C B T 調査		年度末	◎	アンケートや教育相談を実施し、生徒からの聞き取りをしている。講演会などで啓発を進めている。	A	定期的に各クラスが教育相談を実施できた。生徒の悩みを個別にヒアリングし保護者と連携しながら悩みの共有・解消に努めた。道徳では複数教員が交代で受け持つなど工夫し、生徒との接点を増やすことができた。	A
・道徳教育を着実に積み重ね、命の大切さや人権の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会を作る。	年度末			◎			教職員全員がローテーションし、道徳科目の授業を複数の切り口で展開中。	A	A			
独自の取組	地域・家庭への適切な情報発信	学校運営や教育活動が 保護者や地域に見える 「開かれた学校」「信頼される学校」づくりの推進	●学校WEBページの更新、通信類の発行、メール発信を通して、学校の情報を保護者・地域に伝達する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上…A評価(4・5) 80～30%…B評価(3・2) 30%以下…C評価(1)	生徒用学校 アンケート C B T 調査 保護者用学校 アンケート	年度末	○	個人情報保護の観点を大切にしながら情報発信を実施している。	A	保護者アンケートでは「学校が家庭への連携をきめこまかく行っている」が大勢を占めた。文化活動発表会などは、保護者開放を継続し交流は活発化。	A	保護者への発信が随時行われており、学校と地域が情報共有している点は評価できる。今後も「地域に開かれた学校」を継続して欲しい。
			・授業参観、体育大会、文化活動発表会、オープンスクール、教育講演会、PTA活動など、保護者や地域の方が来校する機会を設け、開かれた学校にする。			年度末	◎	授業参観をオープンスクールに変えた。行事はすべて実施し、保護者交流も進んでいる。	A		A	
校長より (年度末) 感染症による学級閉鎖もなく、予定した授業や行事を予定通りに消化することができた。長期にわたったコロナの影響からか暑さに対して体調を崩す生徒が散見された。暑さ対策をはじめ、生徒の健康管理は今後も徹底していきたい。									学校関係者評価者から (年度末) 学校群モデル校としての活動により小学校と中学校の距離が縮まったことは高く評価している。今後も工夫を凝らして、小中9年間を見通した学習環境整備に努めて欲しい。			